

第74回（平成27年度第3回）番組審議会議事録

1. 開催日時：平成27年9月18日（月）午前10時00分～11時20分

2. 会場：西宮市職員会館 第2中会議室

3. 委員の出席： 委員総数：7名
出席委員数：4名

放送事業者側出席者 代表取締役社長：1名
統括部主幹：1名
顧問：1名
西宮市広報課係長：1名

4. 議題

番組内容についての審議

「Join Us!」（西宮市提供）第1・3水曜 21:00～21:30

西宮市内にある高等学校の放送部がそれぞれの学校自慢を高校生の目線で取材し放送する。10分程度に編集したものを持ちより、計30分の番組として放送。

5. 議事概要

社長より審議をお願いする等の挨拶。事務局より委員総数7名中4名の出席で、過半数出席、会は有効に成立している旨の報告。

その後、議題に沿って各委員から意見をいただき、必要に応じて放送事業者側が説明・回答しながら進行。

6. 審議内容

(1) 番組の審議

委員長：聴いて戴いた番組について質疑応答に入ります。お感じになった事を忌憚なく発言を願いたい。

委員：どうして1週目と3週目しか放送しないのか？

事務局：お金の都合もあるが、企画・制作されている西宮市教育委員会の希望です。

委員長：前半の雑音が気になったが。

事務局：録音レベルが高すぎて起こる現象。弊社に素材が届いて加工編集をするが、あれ以上の修正はできない。その辺の技術的な話は各校の放送部にしている。学校によって放送部のレベルも規模もまちまちなので。

委員：北高校さんのは後ろに蝉の鳴き声などが入ってて臨場感あってよかった。学校の雰囲気が出ていて。

委員長：高校生、みんな話上手だと思った。ちょっと早口で聴きづらいが。

委員：鳴尾高校は聴いていて行きたくなくなった。修学旅行が海外ですごいなあと思った。せっかくなので、30分で3校ではなく2校くらいにして毎週放送にはできないのか？1,3週だとリスナーが忘れてしまいそうで。もう1回聴きたいとか。

事務局：昨年秋から始めた番組。2年くらい前に西宮市教育委員会から提案があり話を進めてきたが、当初は2～3校しか参加できないという話もあって毎週の放送は厳しいとなった。では、どうすればたくさんさんの学校が参加できるか、ということであまり「追い込まない・負担にならない」レベルでやって行こうとなり今の形になっている。

社長：1回3校で割り切れないのは少しずつずれていくのか？

事務局：ずれても行くし、8校でも部員数の関係などで作るスピードにばらつきがあり満遍なく回ってる訳ではない。できる高校に頑張ってもらって穴が空かないようにしているので割り切れてはいない。そういうことが解消できるように、部員の少ない学校は「どこかと合同で」とか、特別篇としてさくらFMのスタジオに数校集まってもらって生の声を聴く回を作るなど参加できるように対応している。言い方悪いがまだ試しながら番組の形を探ってるところもある。

社長：聴いていると今どきの高校生の活動事情とかいろいろわかって面白い。

委員：中学生はそういうところを聴きたい？

事務局：高校の校区が最近変わって、西宮市内の中学生が市外の高校へ行ってしまう可能性が増えた。だから、「市内の中学生に西宮にある高校はこんなに面白いよ」ということを知ってほしい。というのがこの番組・企画のコンセプト。

広報課：学区再編で10数個あった学区が5つになり、西宮は北は丹波市から東は尼崎までと大きくなった。以前は市内の中学生は市内の高校しか行けなかった。と

ういうことで中学生の市外への流出を防ぎたいと伺っている。聴いていて気になってるのが各学校の録音レベルがまちまちなことでとても聴きにくいが何とかならないのか？

事務局：実際の放送では調整されて流れているのでラジオやパソコン・スマートフォンで聴く分には大丈夫と思う。各高校の録音レベルなどにも差があるのでその辺もこちらで調整したり、各放送部にお話して解消していくようにする。

委員長：実際の放送も聴いたが確かにそんなに聴きづらいことはなかった。

社 長：最近聴いていて、ラジオは効果音が大事と思った。途中学校のチャイムが入っていたり、タイムリーに音を入れるというのは効果的と感じた。

広報課：高校の放送部はそれなりに人数がいると思っていた。一人しかいないところがあるのには驚いた。

事務局：学校で差がある。兼部していて一人しかいない放送部もある。なので、こういう素材の作り方も分からないという学校もあるし、人数がたくさんいてコンテストでも上位に入る学校もある。

広報課：放送設備自体も学校によって違うのか？

事務局：かなり違うと聞いている。ただ、今はパソコンである程度何でもできるのでそれで対応している様子。放送室の機械はもうあまり使えないという声をよく聞く。

委 員：今津高校さんがインタビューに来たことがある。放送部の活動が盛んなイメージ。それぞれ、その高校に行けばこんな高校生になれるのかな？というイメージが伝わった。(市内の中学生の) 流出を防ぐにはどういう働きができるかは分からないが。いろんな高校の比較ができるので 1 回でいくつかの高校が出てくるのはいいと思う。

顧 問：西宮は市立高校が二つもある。特色あるコースもある。学校間の格差というかコース格差がすごくある。なので、普通科はどんどん流出しているのは現実としてある。今回の放送にはそういう特色あるコースの話がなかった。

委員長：孫が今年高校入試。この頃から先を考えていく時代になっていると感じた。

社 長：南高校は？

事務局：参加は表明されてるし企画当初は会議にも参加されてたが、その後世代が変わったりして最近は難しいと聞いている。

社 長：この辺の差は先生によるのか？

顧 問：そう思う。

社 長：高校野球 100 年という特番を作った。この前久しぶりに市西に行ったが熱気を感じた。他の高校に行ったらどう感じるのか。

委 員：模擬授業で何校か行ったことがある。自分で考えて動ける学校と言われたらできる学校とある。

社 長：地域環境も影響あるのでは。

委 員：西宮市の提供番組なので各高校満遍なく放送できるようにしてあげるのがいいと思う。一人しか居ないところはさくらFMがバックアップしてあげるとか。平等にしてあげられないか。あと、なぜ西宮の放送局なのに標準語なのか？決まりがあるのか？

事務局：特にないが放送部はコンテストがあるので標準語でしゃべるように訓練はしていると思う。

広報課：ラジオドラマなどは関西弁だった。

委 員：標準語だと身近に感じなかった。

事務局：今回入っていなかったが、高校によってはそんなのも過去にあった。

委 員：放送部としてしっかり作っているところは、番組とはこういうものというのがあると思う。

顧 問：部によって規模が違うとのことだが、始まる前にガイダンスなどはしたのか？

事務局：やっている。教育委員会が各校にこういうスタンスで何分くらいなどの説明はしてくれている。そもそも参加できない高校が多かった中で参加できるところだけでもやってみようという話になったので、現在のスタイルになっている。これをどの学校も平均的にできるようにすると、この企画は無理だったと思う。

清 水：ガイダンスにはプロのアナウンサーを入れてるのか？

事務局：そこまではできていない。顧問の先生の指導など各高校の放送部のできる範囲で作ってもらっている。

顧 問：そのガイダンスの時にこの放送の企画の狙いなどをきっちり伝えそこでコンセプトをまとめるということをしっかきしていかないと。狙い目、企画・構成の仕方などをしっかき教えて、そしてプロのアドバイスを。はっきり言うと本当に高校生か？と思うレベル。もう少し高校生らしく狙いを定めて作ってもらってほしい。こちらからもっと指導してレベルをあげないとこれでは効果がないと思う。逆効果では。こんな高校行かせたくないと保護者が言い出すのでは？きっちり反省会などを開き今後どうしたらレベルが上がるか。予算上げてもやらないと。

委 員：「学生に任せて」となると確かに幼稚になることがあるが、それは視点が違うんだと思う。今、高校生の視点でこういうところが魅力だろうと感じてやっているからこういう内容になると思う。それは中学生には響くと思う。保護者に響くかどうかはわからないが、その辺のギャップでは？必ずしも「指導してあげたから良くなる」というところではないように思う。勿論それで中身は変わるだろうが高校生の視点はなくなるのでは？目的からいうとおっしゃる通りかもしれないが、限られた予算の中だったりできるパワーでやろうとしてる中で大きく変えるには、それを言える人が言っていくなどしないと難しいのでは

ないか？

社 長：さくらFMの現スタッフは山ほど仕事を抱えている中で、委員や顧問がおっしゃるようなきめ細やかな対応は厳しい。また教育委員会側もどれだけのパワーが向けられているのか分からない。委員がおっしゃられたようにかなりのパワーを注がなければそこまではできないと思う。中学・高校の教育論みたいな話になったがいろいろ考えないといけないと感じた。

委 員：放送部だけじゃなくて、各高校の入試に携わってる先生を巻き込めたら、もう少し目的に沿ったものになっていくのではないかな？

顧 問：こういう番組をするのはやぶさかではないし、子供たちに任せてやるのは一つの手だと思うが、せっかくやるからにはプロの指導なども大いに頂いて生徒たちもそれに触発されていけばいいと思う。これで生徒が成長していくような良い番組になっていけば。

社 長：今回の皆さんの意見は、次回教育委員会の方とお会いするときにお伝えできればと思う。まだバラつきもあれば試行錯誤の段階ということなので、もっとみなさんの関心を持って戴ける番組にできればと思う。

顧 問：(参加していない) 香風高校は人が居ないのか？

事務局：カリキュラムが違うので参加しにくいと聞いている。放送部自体がないのでは？

顧 問：設備的に言えば香風高校が一番。人材的にもできそうな人が居るように思うが。

委 員：職業体験としてもいいのでは？部活動の時間に合わせてあげて。

事務局：スタジオを使つての収録は提案している。

委 員：とらいやるウィークの中学生はよかった。

社 長：放送部の子たちとの接触はあるのか？

事務局：教育委員会さんとのミーティング、先ほどお伝えした特別編などでお会いするくらい。

社 長：その場面が結構大事。自分たちの番組を見守っている人の一挙手一投足や言動がインパクトを与えると思うので。情熱を持って接してあげてほしい。

顧 問：未来のさくらFMを支える人材。

委 員：学校の先生以外の大人と会う機会はあまりない。いろんな大人が支えてるんだなということを考えると親としては安心感がある。これが伝われば保護者にも伝わるのでは？

事務局：確かに高校生とは交流ができていない。直接話を聞く機会があってもいいかなと思う。

委 員：現場を見ると全然違うと思う。

委員長：この番組以外にご意見は？

委員：視聴率みたいものは分かるのか？

事務局：インターネットサイマル放送に関してはある程度分かる。アンケートをとったりはするが。

社長：FMラジオの電波に関しては分からない。広報課が行ってくれてる市民意識調査やさくらFM独自のアンケートをにしのみや市民祭りの会場で行っている。サイマル放送は聞かれてる地域や時間帯も分かる。結構上位に入っている。西宮市は流動人口が激しい。日本や世界を回っている人が結構聴いている。

委員：土曜日の昼間がミュージックタイムになってるのがもったいないように思う。福山雅治の番組などが土曜の15時くらいにやっているが、その辺がラジオ的には聴かれてるということではないのか？その時間にもっとやったほうがいいと思う。

社長：日曜に生放送を入れたりと少しずつ変えてはいるがスタッフの数などの問題もありなかなかすべてに対応できていないのが現状。大手のようにするには人が足りない。ただ、おっしゃるように土曜にもう少し工夫がいるのは認識している。それでも弊社は夜の方が反応がいいところもある。今までその辺は現場スタッフに任せていたが、今後は番組の内容やパーソナリティさんの資質も踏まえて意見を言わせてもらいながら改善していく。そのためにもこの審議会がある。

議長は委員にその他特に意見がない旨を確認し、本日の審議会を終了し閉会する旨を述べる。

社長は審議会で意見を頂いた事への謝意を述べ、閉会にあたって挨拶を行った。事務局は次回の審議会は平成27年11月20日午後4時00分にと決定し、会場と審議番組は後日改めて連絡する旨、また審議会後懇親会を予定している旨を伝えた。議長は、午前11時20分に審議会閉会を宣した。議事の経過を明確にするため、議事録を作成し、委員長及び出席委員の記名押印をする。

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法

近畿総合通信局への提出が完了次第「さくらFM」のホームページ（URL <http://sakura-fm.co.jp/>）にて掲載。

平成 27 年 9 月 18 日
西宮コミュニティ放送株式会社